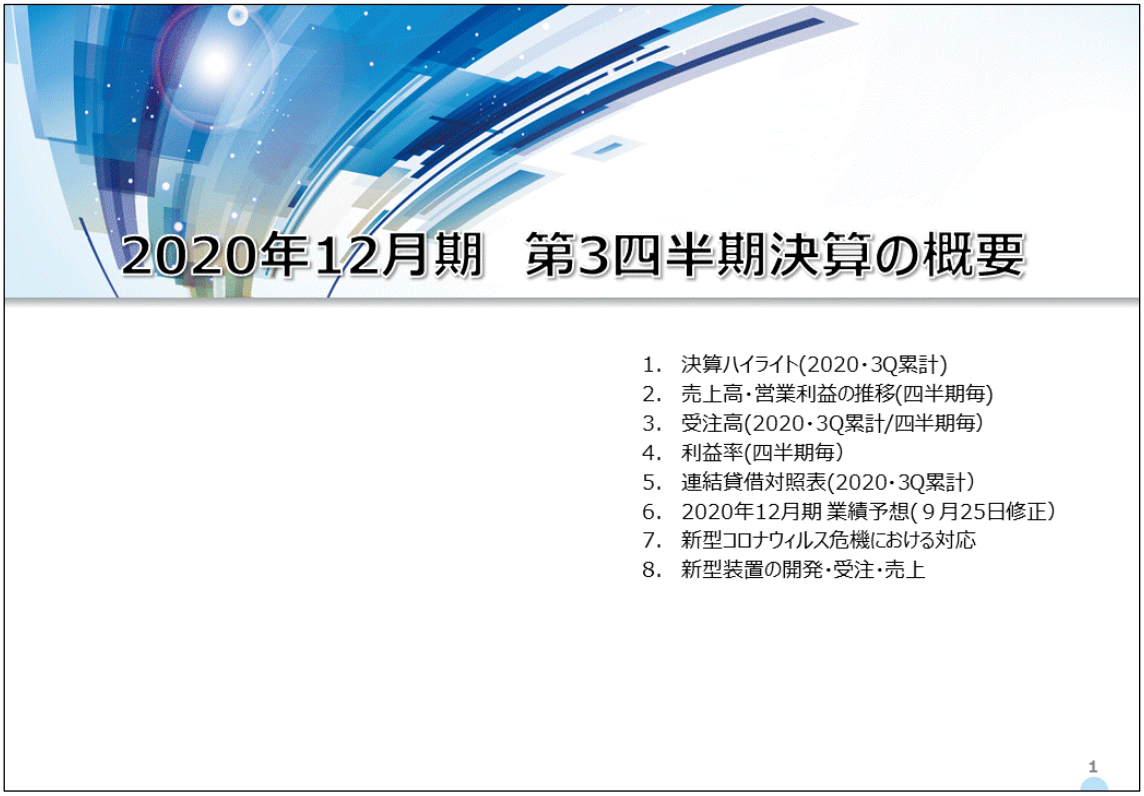
株式会社オプトラン CFO の高橋俊典です。2020 年 12 月期の第 3 四半期決算のご説明をさせていただきます。



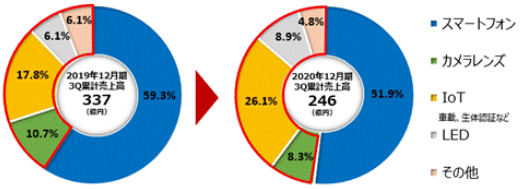
1 決算ハイライト（2020･3Q累計）

- 事業環境：新型コロナウイルス感染拡大の影響が顕著
- 業績ハイライト：売上高･利益率は前年同期比減。受注高は、１Qに北米スマートフォンメーカーからの受注もあり、前年同期比増。受注残高も増加

【業績比較】 （億円）

	2019年12月期 3Q累計	2020年12月期 3Q累計	前年同期比
売上高	337	246	△27.0%
売上総利益 (売上総利益率)	138 (41.0%)	98 (39.9%)	△29.0% —
販管費 (販管費率)	50 (14.9%)	42 (17.3%)	△15.3% —
営業利益 (営業利益率)	88 (26.1%)	55 (22.5%)	△36.9% —
経常利益 (経常利益率)	91 (27.1%)	56 (22.9%)	△38.2%
親会社株主に帰属する四半期純利益 (親会社株主に帰属する四半期純利益率)	74 (22.1%)	42 (17.2%)	△43.2% —
研究開発費 (売上高研究開発費率)	22 (6.6%)	23 (9.6%)	5.4% —
設備投資額	1	7	382.1%
受注高	219	232	5.8%
受注残高	274	310	13.2%

【分野別売上高】



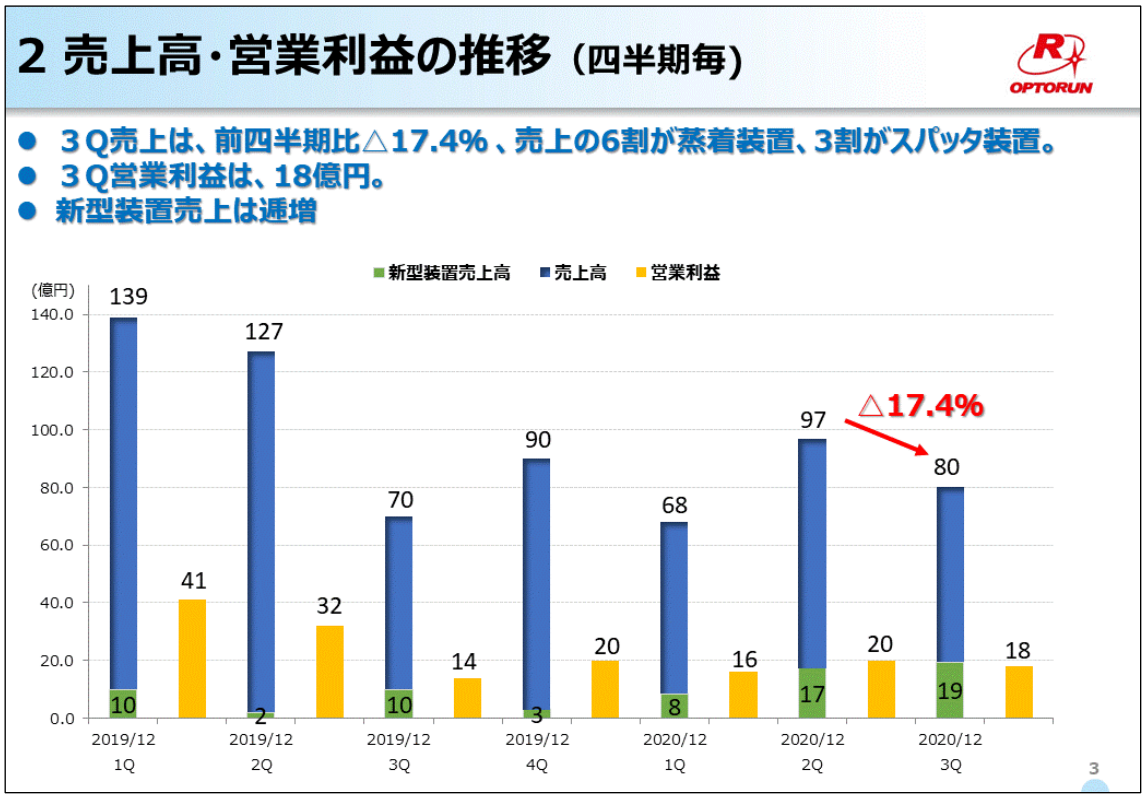
- IoT関連･LED等の比率アップ

2

まず 2 ページでは決算ハイライトを表示しております。2020 年 12 月期第 3 四半期累計期間の売上高、利益に関しましては 2019 年に比べて減収減益となりましたが、受注高、受注残高は、1 年前と比べるとプラスという結果になっています。

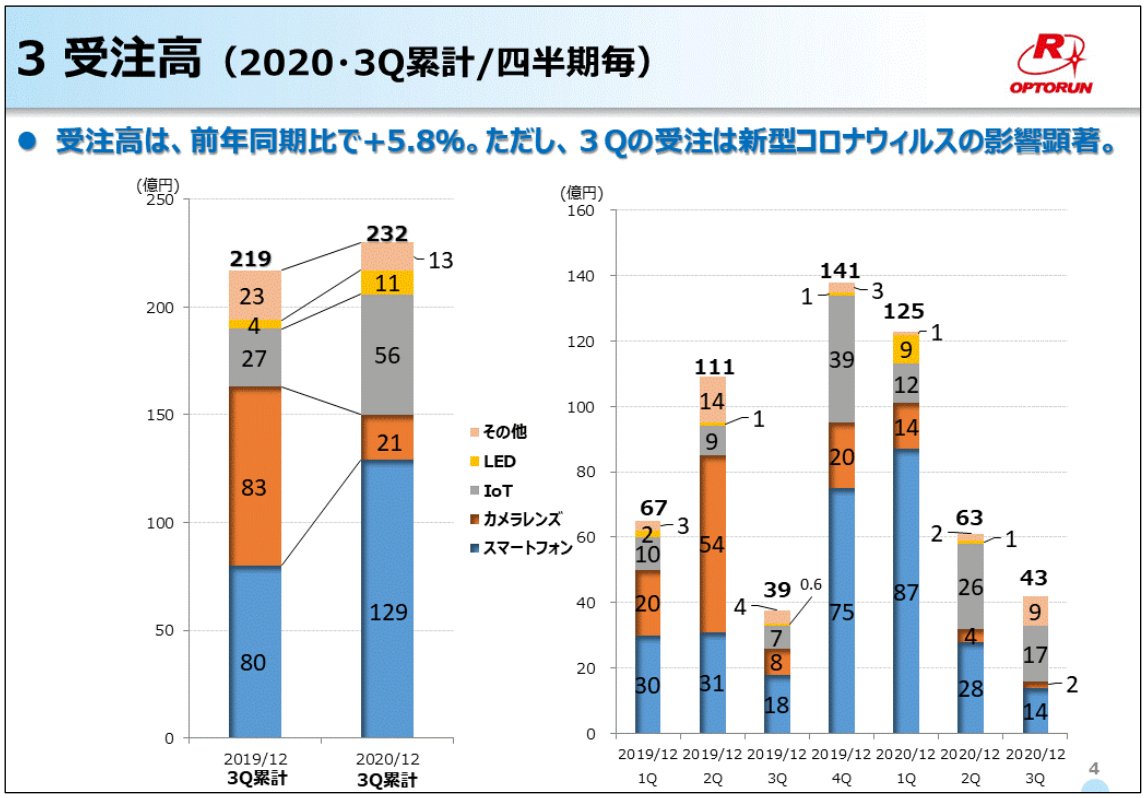
分野別の売上高の特徴といたしましては、IoT 関連と LED 分野はプラスになっています。IoT は主に生体認証や光通信関連になります。

他方で比率がマイナスになりましたのはスマートフォン、カメラレンズです。

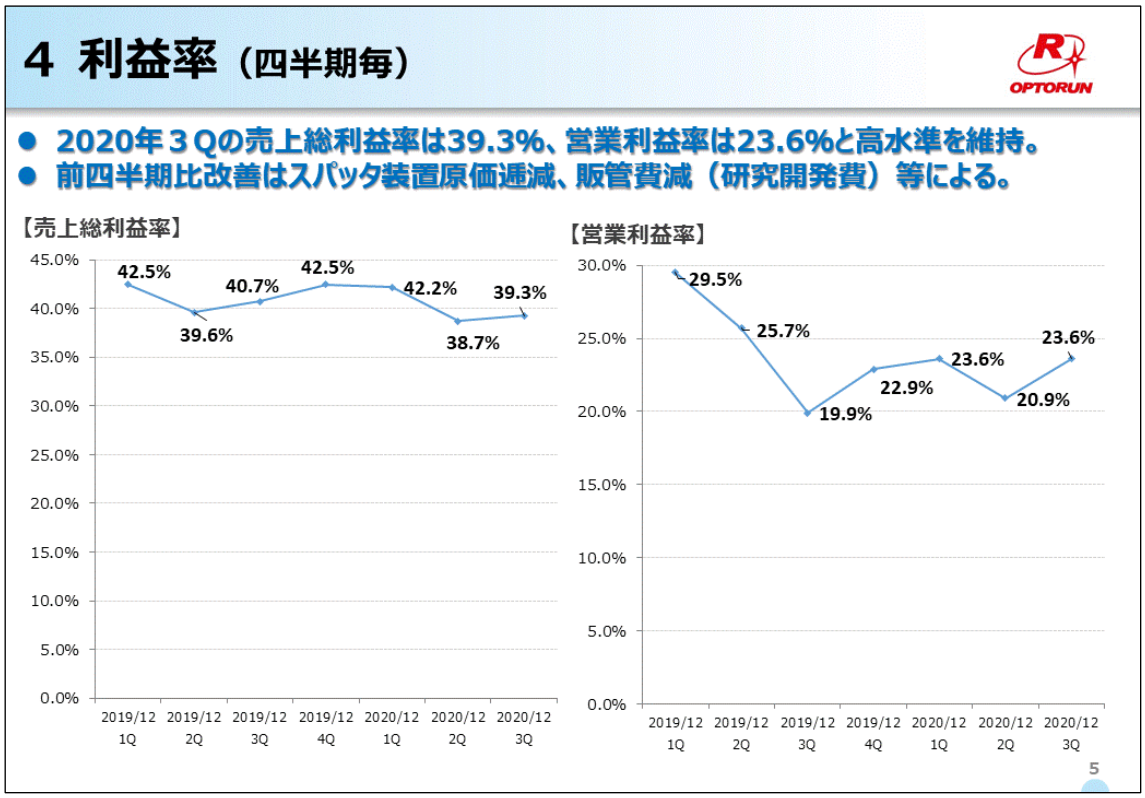


次に 3 ページでは、売上高と営業利益の推移をご説明いたします。今回から、若干様式を変えています。2019 年 12 月期第 1 四半期から 2020 年 12 月期第 3 四半期までの売上高と営業利益率を横に棒グラフで示しています。2020 年 12 月期第 2 四半期と比べますと第 3 四半期は▲17.4%と売上高が落ちています。6 割が蒸着装置、3 割がスパッタ装置という構成でした。2020 年 12 月期第 3 四半期の営業利益率は 18 億円となっています。新型装置の売上は弊社にとりまして現在非常に重要な分野ですので表示しております。2020 年 12 月期第 3 四半期は 19 億円ということで、第 2 四半期が 17 億円、第 1 四半期が 8 億円ということで、合計では今期は 44 億円になっています。比率で言いますと、2020 年 12 月期第 1 四半期から第 3 四半期の累計売上は 245 億円ぐらいになりますが、新型装置の比率が売上ベースで 18%ということになります。

新型装置の主な構成は、LED 関係、生体認証関係の水平スパッタ装置や両面スパッタ装置、これは主に指紋認証とかカメラモジュールに使われます。あとは光通信用の成膜装置です。

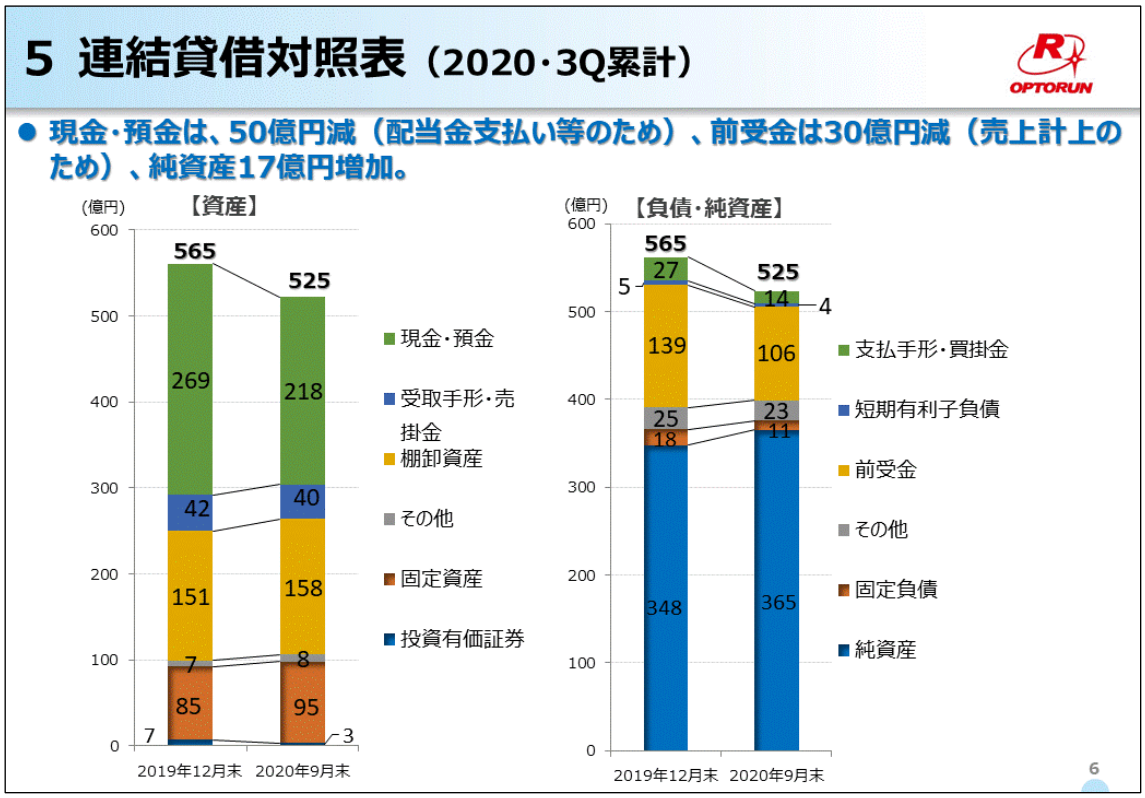


4 ページでは受注高を表示しています。ご覧いただきますように、トータル金額では増加をしています。とりわけ左のグラフを見ていただきますと、プラスになっているところは IoT です。これは分野としては光通信、半導体、医療用、自動車というもので構成されております。スマートフォンにつきましても、1 年前の第 3 四半期累計と比較するとプラスになっています。スマートフォンに関しては、従来から取引のある北米スマートフォンメーカーの受注が入りまして、これが 1 年前に比べると 50 億円ぐらいプラスになっていますので、今回の増加はかなりこれが寄与したということになります。



5 ページでは利益率を表示してあります。左側が売上総利益率で、右側が営業利益率を表示しています。売上総利益率については、2020 年 12 月期第 3 四半期で 39.3%ということになっています。これは 9 月に発表いたしました業績修正の数値で、大体売上総利益率は全体で 40%ぐらいの数値を開示しています。それと比較すると悪くない水準です。

営業利益率は、右側にありますように 23.6%ということで、2020 年 12 月期第 2 四半期よりも改善しています。この改善は、スパッタ装置の原価が少し下がったことと、あとは販管費です。今年は、研究開発費を前倒しで支出していますので、2020 年 12 月期第 3 四半期は比率的には下がったという 2 つが寄与して、2020 年 12 月期第 3 四半期は営業利益率が 2020 年 12 月期第 2 四半期よりも上がっています。



6 ページは連結貸借対照表です。1 年前と比較すると、現金・預金、前受金が減っているのが特徴です。純資産は、利益が出ましたので純資産は増えています。

6 2020年12月期 業績予想（9月25日修正）

- 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、世界経済への影響が顕在化しており、最高度成膜技術を反映した弊社装置への新規発注の動きが抑制されている。
- 米国の対中国経済制裁により、一部の中国スマートフォンメーカーの生産への影響が顕在化したことや新型スマートフォン発売延期の影響もあり、弊社装置発注に影響が出たこともマイナス材料。

（億円）

	2019年12月期 実績	2020年12月期 予想
売上高	428	370
営業利益	108	94
（営業利益率）	(25.4%)	(25.4%)
経常利益	110	97
親会社株主に帰属する当期純利益	91	71
研究開発費	31	29
1株当たり配当金（円）	60	50

7

7ページでは2020年度12月期の業績予想を表示しています。現在の計画では、売上高370億円、そして、親会社株主に帰属する当期純利益が71億円に修正しています。現時点ではこの計画は変えていません。この業績修正は新型コロナウイルスの感染によりまして、市場がかなりスローダウンしていること、それからアメリカと中国の政治的な摩擦で経済にブレーキをかけているため9月に業績修正をしました。

2020年12月期予想が実現できるかどうかは、売上高の達成と販売管理費を低めに抑えていますので、これが計画どおり達成できるかどうかという2点にかかっています。売上につきましては、市場は必ずしも楽観的な状況ではありませんが、この計画につきましては、売上高を達成するように、注力をしています。

販管費についてですが、9月の業績修正を行いました時に、本社、上海、台湾、フィンランドのAflyにおける残りの12月までの予算のチェックをし、その時点で年度末までの予算について必達するということで、グループ内でかなり打ち合わせをしてスタートしています。したがいまして、9月で再度見直しを行った予算については、もちろん毎月チェックをし、費用のほうは予算内に収める、売上利益については予算を達成するということでやっています。そういう前提で、2020年度12月期の予想を立てています。

7　新型コロナウィルス危機における対応

1．基本方針

- オプトラングループの社員やその家族等すべてのステークホルダーの安全と健康を最優先し、徹底した感染予防対策の実施。

2．対応

- 本社・海外現地法人全拠点における徹底した感染予防対策（在宅勤務、体温チェック、国内外出張抑制）を実施し、現時点では感染者はなし。

- 営業・研究開発とも、顧客の近くに拠点を設置し、横断的に事業を運営。感染リスク対策として、一時的に研究開発プロジェクトを拠点間で移管して、開発活動のための出勤可能な体制を維持し、プロジェクト進捗遅延を最小限に抑制。

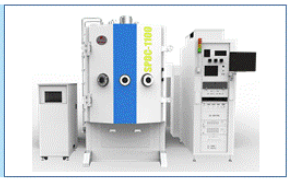
8

8 ページでは、新型コロナウイルス危機における対応についてです。幸いなことに本日時点でこれまでに、当社グループ各社において感染者は 1 人も出ていません。オプトラングループの基本方針といたしまして、社員や家族全てのステークホルダーの皆さまの安全と健康ということを最優先して、感染予防対策を徹底しています。とりわけ 2 の対応にありますように、在宅勤務、体温チェック、国内外出張抑制で、Zoom や Teams を使ったマーケティング等を中心に行うということで、感染予防につきましては細心の注意を払って現在も実施しています。

弊社の場合は、この最後に書いてありますように、そもそも拠点別に、上海と台湾、フィンランドということで、お客さまの近くに拠点を置いて開発、生産、営業を行うという体制を取っていますので、拠点間での海外出張がそれほどなくても、現地で対応できるという強みがあります。それから今回の感染が広がりました時に、例えば研究開発プロジェクトにつきましても、ALD 装置の開発に関しては、上海から台湾に活動の一部を移して、中国が感染が一番大きかった時に、そういう回避の策を取るというフレキシブルな対応をしています。これは開発、生産、営業について全て同じような考え方でやっています。その結果もありまして、新型コロナウイルスに対する感染、対応につきましては問題なく円滑に行われております。

8 新型装置の開発・受注・売上

光通信向け蒸着装置（SPOC）
弊社は 1999 年の設立直後に、光通信多重伝送用に世界最高水準の光学フィルター成膜を可能とする装置の開発に成功し、販売今回、全面的な設計・性能見直しを行い、５G で求められる高性能光学薄膜の量産を可能とし、複数社より受注を獲得し、売上計上も開始。



ALD 装置
光学成膜にALD 原子レベル積層技術（原子層堆積法）を取り入れ、新しい成膜技術可能性を追求した、世界初の装置。スマートフォン等の広角レンズや、複雑な表面の、ミニ LED ・マイクロ LED等の成膜での利用が期待されている。既に複数社より受注を獲得。

医療用 X 線 FPD シンチレータ真空成膜装置
弊社は、X 線 FPD（Flat Panel Detector）用のシンチレータへ CsI 膜成膜を行う用途の従来装置を大幅に刷新し、高画質化、低線量化、大量生産に適した装置を完成し、受注・ 売上が本格化。

両面スパッタ装置（OWLS）
基板成膜面が上向き・下向き・両面同時の３種類の成膜方式に対して、１台の装置で対応可能。車載センサー、電子部品、光学部品等での利用が期待されてている。複数社より受注を獲得し、売上計上も開始。

9

これはご参考です。新型装置を 4 つ掲載しています。上の 3 つは今年度に入りまして開示をしています。一番下の両面スパッタ装置については昨年度開示をしています。ご説明で申し上げましたように、ここに記載されているこういった装置が、今後どれだけ売上高の比率を高めていくかということが、弊社にとって非常に重要なキーファクターになっています。2021 年にかけて、現在お客さまから寄せられている開発ニーズにつきまして、相当実現可能性の高い開発段階になっているものも、ほかにもあります。2021 年は 2020 年に比べれば、おそらく受注状況は改善するのではないかと考えています。

免責事項・注意事項ならびにお問合せ先

当資料に記載された内容は、2020年11月10日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

【お問合せ先】
E-mail：ir-info@optorun.co.jp　　TEL：03-6635-9487

10

以上